ノーサイド

北原　巌男

民意を受けて

2月8日に行われた衆議院議員選挙は、自由民主党の歴史的大勝利となりました。衆議院議員全465議席の約68%にあたる316議席を独占。単独の党が全議席の3分の2を超える議席を確保したのは、戦後初であり、常任委員会の全ての委員長ポストの独占が可能とのことです。また与党が過半数に及ばない参議院において、仮に衆議院から送られた法案が否決された場合でも、衆議院で再可決が出来ます。更には、憲法改正の国会発議も可能な議席数です。（連立を組む日本維新の会が獲得した36議席と合わせると与党は352議席となり、全議席の約76%を占めることになります）。

この選挙結果は、ひとえに国民が、日本の舵取りをいわゆる2世や3世等の議員でなく、自らガラスの天井を打ち破り、働いて働いて働いて働き続けるわが国初の女性宰相・高市早苗首相に委ねることを、はっきり選択したことを示しています。

選挙戦開始に当たって発した「与党で過半数を割ったら直ちに首相を辞任する」等、自ら退路を断った高市早苗首相の歯切れのよい覚悟の言明を始め、その力強い発信力は、次代を担う多くの若者を始め世代を超えた国民の琴線に触れたのではないでしょうか。「高市早苗首相ならやってくれるのではないか」。

今回の選挙の特色は、人間ステーツウーマンにして日本の強いリーダーたる高市早苗首相個人に対する信任投票そのもの。そして、圧倒的な信任を勝ち得た高市早苗首相。

今、高市首相は、公約した「国論を二分するような大胆な政策の転換」を始め各種政策の速やかな実現に向け、先頭に立って邁進して行く決意と覚悟を新たにされておられると共に、「勝って兜の緒を締めよ」との強い気持ちも持たれていることと思います。

これから2月18日にも召集が予定される特別国会で改めて首班指名を受け、天皇陛下から首相に任命される高市早苗首相は、速やかに第2次高市政権を発足させることになります。高市政権は、よほどのことが無い限り、今回のような議員任期僅か1年3か月で解散・選挙というような事態の生起は想定し得ません。安定政権として、これから少なくとも任期の4年近く、更にその先にわたって政権を運営して行くことになると思われます。

高市早苗首相は、民意の圧倒的信任・支持を得た責任と矜持を以て、山積する内政・外政の諸課題・懸案に取り組んで行かれます。これまでになく厳しい国内外の諸情勢の真っ只中にあって、今こそ決められない政治・問題先送り政治からの脱却が期待されます。

同時に極めて大事なことは、驕ることなくどこまでも謙虚さを忘れないで頂きたいことです。国民の民意は、白紙委任状を与えたことではありません。

首相の座に在る方はどなたも、特に強い首相とみなされるような方は、ある意味大変孤独ではないかと思います。状況を全く承知する立場にない筆者が、はなはだ僭越なことを申し上げることは失礼千万でしょうが、これから高市早苗首相ご自身に対し直接諫言される方の存在は、益々、極めて重要になって行くと思います。高市早苗首相には、そのような方が是非在って欲しいです。おられる場合は、かけがえの無い方です。耳は痛いでしょうが、大切にしていただきたいと思います。

国会においても、異なったり反対する意見等にも真摯に耳を傾け、丁寧に議論を尽くし、卓越されたリーダーシップを発揮して行って頂きたいと思います。

昨年10月24日に開催された第102回国会。高市早苗首相はその所信表明で聖徳太子の「十七条の憲法」を引用した上で、次のように呼びかけました。

「古来より、我が国においては衆議が重視されてきました。政治とは、独断ではなく、共に語り、共に悩み、共に決める営みです。私は、国家国民のため、各党の皆さんと真摯に向き合い、未来を築いて参ります。・・・どうか皆様、共に日本の新たな一歩を踏み出しましょう。」

与野党拮抗し、予算案や法案成立等のためには、慎重な国会運営が不可欠であった昨年の議員構成と今回の選挙結果に基づく議員構成とでは、その様相は正に驚天動地、全く異なります。

でも、むしろ、であればこそ、間もなく召集される特別国会における所信表明において、改めて高市早苗首相から同旨の再言を望んで止みません。

今回の選挙結果は、新たな時代の幕開けと言っても過言ではありません。

防衛省・自衛隊の皆さんには、国民の理解と支持を大前提に、強い高市早苗首相そして間もなく任命される防衛大臣のもとで、いかなる事態の生起に際しても日本の平和と国民を守り、以て国民の負託に応えて行くためのしたたかな防衛外交の展開・防衛力の抜本的強化・国内防衛基盤の整備・士気の高い隊員及び部隊の練度向上等に努めると共に、国権の最高機関である国会での審議等に臨んでは、出来る限り分かり易い応答・説明等に努めて頂きたいと思います。

自衛隊は、どこまでも常に国民と共に在る国民の自衛隊です。

（ご参考）

筆者は、今回の選挙で女性議員の躍進を期待しました。しかし当選された女性議員は、465名中68名（14・6%）。過去2番目の高さとのことですが、前回、石破茂首相の下で行われた2024年10月の衆議院議員選挙の際の73名（15・7%）に及ばず、かつて安倍晋三首相が言われていた女性議員の割合を30%へ、には程遠い数字です。ちなみに、昨年10月に11番目のASEAN加盟国となった東ティモールの国民議会議員に占める女性議員の割合は約38%。

北原　巌男（きたはらいわお）　元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事